

仙台防災未来フォーラム 2026 において、災害レジリエンス共創センターシンポジウム「災害レジリエンス共創にむけたデジタル・トランスフォーメーション」を開催しました（2026/3/14）

テーマ：災害レジリエンス, デジタルツイン, 防災 DX,
会場：仙台国際センター展示棟・展示室 1-B
URL：https://irides.tohoku.ac.jp/event/event_in/detail---id-6334.html

2026年3月14日（土）、仙台国際センターにて「仙台防災未来フォーラム 2026」が開催され、災害レジリエンス共創センターは、毎年3月の恒例イベントとして本年も出展しました。今年度は「災害レジリエンス共創に向けたデジタル・トランスフォーメーション」をテーマにシンポジウムを開催しました。災害リスクの低減やよりよく復興する社会につなげるためには、デジタル技術の活用が不可欠です。しかし、優れた技術や有益なデータが存在していても、社会の中で共有・連携が進まなければ、人命を守り、実効性のある防災・減災に結びつけることはできません。本シンポジウムでは、「防災 DX = 社会全体の変革」という視点から、多様な主体が連携するための取り組みや今後の展望について議論を行いました。

災害レジリエンス共創センター主シンポジウム 2026 「災害レジリエンス共創にむけたデジタル・トランスフォーメーション」

■ 基調講演 江口 清貴 氏（内閣府防災庁設置準備アドバイザー会議 専門委員、当研究所災害公衆衛生学分野特任教授（客員）ほか）

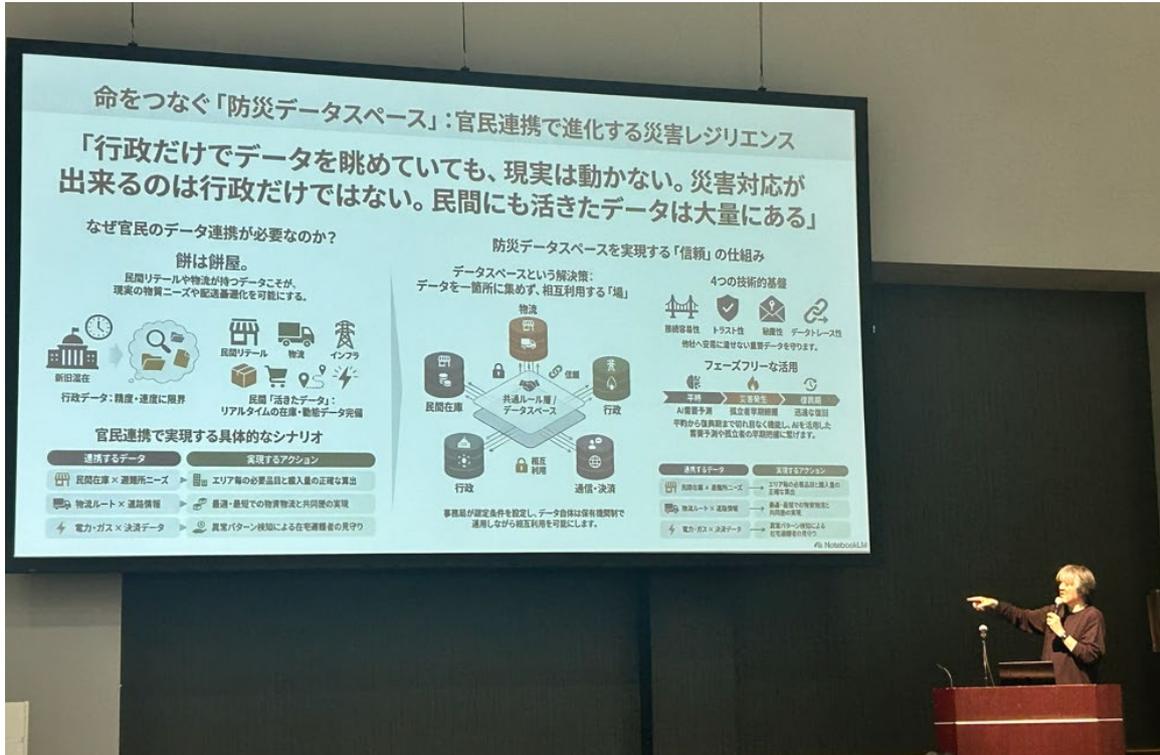
防災 DX の本質は単なる IT 導入ではなく、「必要な情報を必要な人に確実に届け、データ分析に基づく迅速な意思決定を可能にすること」にあると強調しました。そのためには、平時からデジタル技術を活用できる基盤整備が重要であり、産官学民が一体となった一元的な取り組みが不可欠であると述べました。

■ 災害レジリエンス共創センター 研究報告

- ヒューマンレジリエンス研究領域： 江川 新一 教授
「マイナンバーカード」を活用し、災害時や復興期の災害関連死を予防する事例を紹介。多くの人々が日常的に使うデジタル技術を活かすことの有効性を示しました。
- 災害レジリエンス数量化研究領域： 越村 俊一 教授
デジタルツインを用いた「リアルタイム津波浸水・被害予測システム」について、自治体と連携した社会実装に向けた検証状況を報告しました。
- 災害レジリエンス共創領域： 小野 裕一 教授、橋本 尚志 氏（富士通株式会社）
インクルーシブ防災（誰ひとり取り残さない防災）の実現に向け、住民・大学・企業・行政が協働して開発した「個別避難計画に役立つアプリ」の事例を紹介しました。
- 災害情報キュレーション研究領域： 堀合 紳弥 助教
「津波避難交通シミュレーション」を例に、膨大な情報を取捨選択・整理し、住民の適切な行動判断につなげる情報提供の重要性を説明しました。

当日は約 100 名の来場者が訪れ、市民参加型の場で防災 DX の重要性を広く発信する貴重な機会となりました。防災 DX は命を守るための社会システムそのものの変革であり、災害に強い社会は多様な主体の「共創」によって築かれることを改めて示す場となりました。

災害レジリエンス共創センターシンポジウム 2026 の様子



基調講演 江口清貴 氏



江川新一 教授



越村俊一 教授



小野裕一 教授と橋本尚志 氏



堀合紳弥 助教